

OPINION

中部経済新聞

新型コロナウイルスのまん延がほぼ終息して半年が経過した2023年7月、中央アジア・コーカサス(CA)諸国の経営コンサルタントがカザフスタンのアルマトイ(同国の南東部にある都市、人口150万人以上の最大都市。

ナヒゲーター

同国における経済・教育・文化の中心地で、「南の首都」とも呼ばれる元首都)に集まり、地域における経営コンサルティング業界の発展について意見交換しました。新市場の動向やコンサルティングの新しい方法論について議論し、市場や協力関係機関につ

其 58

日本への期待 世界各地から

編集・執筆 リーム中産連

コンサルタント会議から

いて関連情報を交換し、業界の発展のための魅力的な原動力となりうるような会議を開催しました。

この会議は、EBRD(欧州復興開発銀行)とUSAID(アメリカ合衆国国際開発庁)の後援のもと、カザフスタン経営コンサルタント協議会とカザフスタン人公認経営コンサルタントによって開催されました。会議は和やかで活気に満ちた雰囲気の中で開催され、参加者全員がさらなる専門的な能力開発のための刺激と情報や知識を得ること

カザフをとりまく経営コンサルティング動向(上)

ができました。

会議では今日、地球上のすべての住人が口にかけているような現代の「ホット」な話題が討論されました。グリーン経済の進展、デジタル化、ソーシャルネットワークとIT分野での発展、そしてもちろん人工知能(AI)の普及などです。

AIの活用という話題は、おそらく参加者全員の最大の関心を喚起し、会議終了後、経営コンサルティング実務におけるAIの実践的応用に関する二つの上級者向け特別セッションが

ミニナーが開催されました。

この会議では、経営コンサルティングのツール、技術、トレンド、問題や課題について検討し、討論する円卓会議が開催されました。テーマとしては、AIとコンサルティング、複雑系コンサルティング、中小企業の輸出と輸出支援に関するコンサルティング、CA地域における経営コンサルティング市場の動向、経営コンサルティングにおける倫理、具体的なプロジェクト事例からカイゼン哲学を学ぶなどです。

「カイゼン」という話題は大きな関心を集めており、会議の2日間に、CA諸国における数多くのカイゼン事例や実践例が発表されました。カザフスタン、ウズベキスタン、キルギスの専門家たちは、方

支援で、カイゼンやリーン生産方式の手法や方法論が活発に広まっています。

「カイゼン」という話題は、大きな関心を集めており、会議の2日間に、CA諸国における数多くのカイゼン事例や実践例が発表されました。カザフスタン、ウズベキスタン、キルギスの専門家たちは、方論や手法に関しての適用についての経験を共有し、特に発展途上国での経済や企業状況にカイゼンを応用することについてそれぞれの考えを述べました。

カザフスタンでは、すでに15年前からカイゼンに大きな関心が寄せられ、政府関連の

【アナトリー・フェスコフ
リーム中産連】
(月曜日に掲載)